# うるかし通信

- 般社団法人 うるわしの桜井をつくる会 〒633-0091 奈良県桜井市 桜井1259エルトさくらい内 TEL&FAX:0744-47-3981 URL: http://lets.some.jp E-mail:lets@some.ip

臨時特集号



## 追悼 芝房治さん逝く

芝房治氏(うるわしの桜井をつくる会 常任理事)が 1月19日逝去された。享年90歳。矍鑠(かくしゃく)た る生前の姿を知るものにとって、余りにも早い不帰の 旅立ちであった。ここに縁の深い方々に人間芝房治氏 を語ってもらい、追悼の言葉にしたい。(あいうえお順)

#### 郷土「桜井」を何より愛した人

淺川 肇

芝さんから直接、聞いた話である。芝さんは京都の中学校で学んだが、当時、軍国主義を進める政府は全国の中学校に軍事教練を課し、将校級の軍人を各校に配属した。ある日、その軍人が「京都の中学生は学問が好きなようだが、体育を軽んじているのか眼鏡をかけている生徒が多い。それではお国の役に立たない」と説教した。

少年芝房治は立ち上がって質問した「眼鏡をかけているのが悪いとすれば、天皇陛下もおかけになっていますが……」途端に配属将校から拳骨の嵐。芝さんの歯は全部折られ、顔面は見るも無惨に紫色に腫れあがった。

芝さんは戦後最初の共産党書記長徳田球一の演説に共鳴して、即座に入党したというが、反軍・反権力の胚芽は少年時代からのもので、決して一夜づけのものではないのだ。

わたしは「桜井の明日を語る会」のメンバーになって、交友を密にしたが、それ以前は深いつながりはない。しかし、上記の逸話が示すように、元来エピソードの多い人ではないかと思う。 酒を好み「やると思えばどこまでエやるさァ」と歌って宴席を盛り上げ、興に乗ると寮歌・軍歌を唱う、典型的な戦前派。

政治家はみんな演説が好きだが、芝さんも人前でしゃべるのが好きだった。しかし、戦後まだ豪傑の多かった桜井で、若僧として売り出した芝さんには、はらはらするほど勇気のある発言が多かったのではなかろうか。また、それに期待した市民も多かったろう。

芝さんはわたしのような北九州のコスモポリタン都市門司の生れには、異常としか思えないほど郷土愛の強い人。思想的には本質的に相反する保田與重郎を熱狂的に持ち上げる人でもあった。芝さんには思想より郷土愛の方が大切なものだった。

多才な人で短歌・俳句も作ったが、漢文調の文章も忘れ難い。総じていえば、現在、失われて しまった文人肌の人だった。しかし、芝さんにいわせれば、やはり政治家として終始したと自負 されるのではあるまいか。市政について、国政について、歯に衣着せぬ物言いで、政治家として の見識を示された。

19日の夕「うるわしの桜井をつくる会」の新春交流会の中間報告と、ほかに二・三のことを話した。少し話しが長くなったので、また明日と電話をおいたが、それが最後になってしまった。もう少し、いやもっと語り合いたい人であった。

#### 桜井の碩学芝房治さん逝く

井上 孝良

生死無常、定まりのないのがこの世の常とは申せ、芝さん貴方はこんなにも早く逝ってしまわれたのでしょうか。

昨年末の入院、療養の結果も良好、昨年12月に無事退院され、本年1月6日には再び温顔に接することが出来ましたのに20日早朝のお知らせは誠に衝撃的なものでした。悲しみをとおりこして淋しさがこみあげ、ただ呆然としていました。

芝さんは90年の生涯を通じて社会正義と地域の人々の生活の向上、地場産業の繁栄、街の活性化・発展に骨身を惜しまず尽くされました。東にトラブルあればすぐ飛んでいき、西に悩んでいる人があればすぐ相談に乗ってあげる、豊富な経験と知識、それに持ち前の行動力で自から問題解決を計る。それが芝さんでした。芝さんのエネルギーの源は桜井が大好きの精神、深き愛郷の心が強い人であったからだと思います。

私が芝さんと親しくお付き合いを願うことになりましたのは、芝さんが主宰する、愛郷の士が集まるサロンのような「桜井の明日を語る会」にお誘い頂いた15年以前からですが、その後、野村味生さん代表の「桜井市の環境を守る会」の二団体を発展的に解消し新たに「うるわしの桜井をつくる会」を立ち上げられ、ご一緒にに活動してまいりましたが、芝さんは誠に心温かい人情溢れるお人柄で、親切で誰からも好かれ、多くの人々が周辺に集まりました。

ユニークな発想と哲学の持ち主で、ご性格は歳とともに磨きがかかり、90歳近くのご 老齢になられても、衰えを見せない頭脳の若さを保たれ、語られる一語一語に教えられ ることが度々ありました。

芝さん、長い間ほんとうに有難うございました。わたくしどもは、芝さんのご功績を 偲び意志をついで前に進んで行きます。

#### 追悼

島崎 章

芝房治氏と私は、主義主張は多少異なりましたが、親子ほど年齢が違ったせいもあり、よく可愛がって頂き、あらゆる方面にわたり指導、アドバイスをしていただきました、いつも論理的で平等かつ公正明白な人でありました。

特に、桜井駅前再開発事業の際は、組合設立当初より大変ご尽力をいただき、お互い相反する立場ではありましたが、桜井市を良くするんだと言う

また、10年ほど前に、東吉野の山林に干本のしだれ桜を植えたいと相談をしたときには、「林業の多角化のためにはとてもいいことだ」と推進の激励をいただき、勇気をもらった事を覚えています。現在、その桜山の一角に記念桜苑があり、芝さんの記念桜も植樹されています。毎年、この下でお酒を飲むのが楽しみだと笑って話されていた芝さん、今年はご一緒できないのが残念です。桜は毎年咲きます。どうか空から見守っていて下さい。

一点で努力を重ね、事業を完遂することができました。

長い間いろいろとお世話になり有り難うございました。

合掌



#### 青垣山が破壊されている……

元桜井市の環境を守る会 西川 武男

平成19年、桜井青垣山が破壊されているとの情報が桜井全体に流れ、「このままでは 桜井がゴミの山になってしまう、させてはならない」と桜井みどりの市民の会と地元有 志で勉強会を開いたのが、市民運動の始まりでした。景観・環境破壊そして負の遺産を 子孫へ残す事になる、知識人を招き再三の学習会を開いた。その場所はまほろばセン ターであり、帰りに事務室の前を通ると、「どうぞ」とお声をかけていただいたのは芝 先生であったのです。ソファーにかけておられて、「今日はどうでしたか?」と学習会 の内容を尋ねられ、意見を聞かせていただいたのです。

常に市民運動の難しさを聞かされ、結局、地元住民の同意が間違いであって、毎月発刊の桜井ジャーナルで高田産廃処分場について、2回にわたり特集を出され処分場周辺の環境破壊(空気・臭気・地下水汚染)の恐ろしさを語っていただきました。

そして、新しい処分場を確保しようとしているニュースが入ると、いち早く地元住民の方々に事情を聞き、「これは、ほっとくわけにはゆかぬ、命をかけても阻止しなくてはならない」と業者と直談判し「もし、北山地区に処分場を造るならば、全桜井市民を相手にして戦かわなくてはならない、それでも造りますか?」と業者に本意をせまっていただいた事のお話をじかに聞かせていただきました。この事は桜井ジャーナルにも記載されました。何事も毅然とした態度で歩んでこられた事、先生の生き様を見習いたいものです。参考に今一度、桜井ジャーナル愚者のたわごとをお読み下さい。

#### 追悼

長谷川 明

芝さんはすごく頭の良い方でした、如何なる難題難問を伺っても、豊かな知識と泉の如く湧き出る知恵でたちどころに問題点を整理され解決への方向性や方策を的確にご教示いただき、只々感嘆させられるばかりでした。

政治的思想を決して押し売りしない、剛胆にして細心、ハラハラするようなことを平然と云ってのけるけれど、決して相手の人格を傷つけない、その爽やかな弁説は聴く人々を充分に魅了させる力量と人徳の溢れるお人柄でした、とりわけ郷土を愛する芝さんの行動力は素晴らしかった、邪馬台国についての綿密な調査研究、九州説との果敢な論争も見事なものでした、「箸墓古墳の調査を一刻も早く」と云っておられた芝さん、ようやく立ち入り調査が行われました、ご生前中にこの朗報をお届けしたかった。

地元の音羽山観音寺の再興にも力を尽されました、また、「仏教口伝の碑」建立に取り組まれた芝さんのお姿に周囲の者すべてが熱くなって心を合わせたことも忘れられません。

更に、市議会議員として、一市民として、市の将来を見据えての多くの貴重なご提案を発信し続けてこられました。桜井駅前の再開発事業では、権利関係が複雑極まる中で権利者の皆さんと何百回にも及ぶ話し合い交渉に、常に先頭に立ち努力いただいたなどの思い出の数々、枚挙に暇がないが、まことに得難い人物を私たちは失ってしまいました。

敬愛する芝さん、あなたの快い毒舌をもう一度聞きたいです、残念至極です、さようなら。



### 芝 房治 略年譜

●1924年4月25日 桜井市南音羽で生まれる

●1943年3月 京都府立京都第一中学校卒業

●1975年4月 桜井市議会議員初当選(共産党)

●1982年 桜井の明日を語る会を立ち上げる

●1989年3月 桜井都市開発株式会社取締役に就任

●2010年3月 うるわしの桜井をつくる会を立ち上げる

●2012年12月 『道遥(はる)かなり奥吉野』を出版



## 在りし日の 芝 房治さん



まほろば講座 まほろばセンターにて





京都長岡京にて